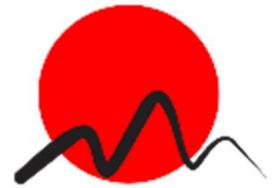


Slovenia Monthly January 2020

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年2月13日



～1月の主なポイント～

- 内政： シャレット首相が辞任
- 外政： シャレット首相，ダボス会議に出席
- 経済： アドリア航空資産競売の実施
- 軍事： スロベニア軍部隊，イラク北部エルビルから帰国
- 文化： スロベニア男子卓球代表，オリンピックへの初出場が決定

政治

【シャレット首相の辞任】

●シャレット首相の辞任表明

1月27日午前，シャレット首相は，現在の少数連立政権では，目指していた政策等を達成できないと述べ，辞意を表明した。

シャレット首相の辞意表明は，27日午前，ベルトンツェル財務相が医療保険制度改革に関して政府内で意見の相違があったとして辞意を表明したことが明らかになった直後であった。

シャレット首相は，記者団に対して，「(シャレット首相が党首を務めるマリヤン・シャレット・リスト(LMS)に所属する)議員13名と現在の連立では，人々の期待に応えることはできない。他方，選挙後にはそれを成し遂げることができる」と述べた。また，同首相は，「解散総選挙に関心のある全ての人と協力について協議する意向がある。すでに，連立与党の現代中央党(SMC)のポチヴァルシェク党首と協力に合意している。(選挙なしの)新たな政権樹立に向けて議会内で動きがあると思うが，一番公平な道は早期解散総選挙を実施することである」と述べた。



(写真：www.gov.si, Nebojša Tejić/STA)

<主要政党の反応>

ポチヴァルシェク経済開発・技術相 (現代中央党(SMC:与党)党首)

現時点における選挙の必要性は感じない。現在のスロベニアの状況は安定しており，この状況を前進するために活用することができる。(シャレット首相より打診のあった選挙協力について問われたのに対して，明言を避けて)SMCは，全ての人と協力しており，如何なる可能性も排除しない。

ジダン国民議会議長

(社会民主党(SD:与党)党首)

医療保険制度改革を巡り、LMS所属のベルトンツェル財務大臣とシャベデル保健大臣が対立し、同財務大臣が辞任したため、このような事態が起きてもおかしくはなかった。

ピヴェツ農林食糧相

(年金者党(Desusu:与党)党首)

シャレツ首相の辞任は驚きであり、予測できなかった。今後の方針について党内で協議する。

ブラトウシェク副首相兼インフラ相

(アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB:与党)党首)

シャレツ首相本人からではなく、メディア報道により首相の辞意を知ることとなったのは遺憾である。

ヤンシャ民主党

(民主党(SDS, 野党)党首)

(速報後、既に自身のツイッターにて「死骸が身をさらした」とコメントしたのに続き)今後の方針については党内で協議するが、解散総選挙の実施が最も現実的であり最善の道である。SDSは、選挙実施に向けて準備が整っている。

●当地主要紙等の論評(27日付)

日刊紙「Delo」

シャレツ首相の辞意表明と早期解散総選挙の実施呼びかけは、同首相が自身の権力基盤を固めたいという希望を反映していると言える。シャレツ首相のスピーチが示唆するところ、LMS所属議員を現在の13人から増加させ、国民に約束した改革の実施を議会で可決させるための体制を強化したい意向があると捉えられる。一方、現時点においては、(解散総選挙をせずに)閣僚の入れ替えによる新たな政権の発足の可能性も排除されない。また、選挙実施がどのような結果をもたらすかは不透明であり、過去に見られた右派と左派の間の論争がまた繰り広げられることが予想される。

日刊紙「Večer」:

シャレツ首相は現在の高い政権支持率に全てを賭けている。同首相の突然の辞任後、最も可能性の高いシナリオは解散総選挙であるが、他のシナリオも考えられる。シャレツ首相は、辞意を表明した際、ポチヴァルシェクSMC党首との選挙協力について言及したが、その後、同SMC党首は「全ての党との協力の可能性にオープンである」との立

場を示したことから、首相が事前に連立パートナーとの合意には至っておらず、協力を適切に計算せずに辞意を表明したことが明らかになった。

日刊紙「Dnevnik」

シャレツ首相の辞意表明は、一見、同首相にとって有利に見えたが、首相はいくつかのミスを犯した。同首相は、事前に連立与党のパートナーに対して辞任の意向がある旨共有しなかったことにより、同首相が高慢であり、連立パートナーらを侮辱したとの非難に繋がった。こうした行動が、連立パートナーらの間で悪い感情を生み出し、選挙後の連立交渉をする際に必ず影響することを忘れてはならない。さらに、シャレツ首相は、辞任について説得力のある理由を述べていない。

【シャレツ首相辞任表明後の動き】

●シャレツ首相、正式に辞任

1月29日、シャレツ首相は、国民議会に対して正式に辞任通告を行った。シャレツ首相による辞任通告をもって、現政権は国の通常機能を果たすため日々の任務のみを遂行する管理内閣となった。

パホル大統領は、2月4日～6日にかけて、各政党代表と協議を行う予定で、1月31日、同大統領は「解散総選挙を実施するにせよ、(選挙なしの)連立組み替えによる政権が発足するにせよ、スロベニアには、議会過半数を有する政権が必要である」と述べた。

【今後の展開】

スロベニアの関連法によれば、首相が大統領及び国民議会に対し、辞意を正式に通告後、大統領は30日以内に新首相候補を指名することとなり、同候補が国民議会により7日以内に承認された場合、同候補は承認後15日以内に閣僚名簿を提示する。この閣僚名簿が国民議会により承認された場合、新たな政権が発足する。

仮に、大統領が適切な候補者を指名しない場合には、国民議会議員は、首相候補を指名することとなる(一回目は14日以内、二回目は一回目の候補が否決された後48時間以内)。国民議会が首相候補の指名を行えない場合には、大統領は国民議会を解散し、2か月以内に総選挙を行うこととなる。

なお、いずれにしても新政権発足までは、現政権がその職を遂行する。

【内政一般】

●年金者党党首選でピヴェツ農林食糧相が勝利、エリヤヴェツ国防相は大臣辞任の意向を表明【18日～19日】

18日、連立与党の一角を担う年金者党(DeSUS)の党大会において党首選が行われ、ピヴェツ農林食糧相が145票の信任票を得て、80票を獲得した党首のエリヤヴェツ国防相を破り、党首に選出された。党首選勝利後、ピヴェツ農林食糧相は、「謹んで党首を引き受ける。現在重要なのは党の結束を固めることである。党にはやるべきことが多くあり、そのためには経験豊富な古参の党員の力が必要である」と述べた。

党首選での敗北を受け、エリヤヴェツ国防相は、政界からの引退及び国防大臣として辞表を提出する意向を明らかにした。エリヤヴェツ国防相は、辞任の理由として「2004年以降、自分は全ての政権に関与し、様々な分野の閣僚を務めてきた。党首として、年金者のために何かを達成するためには、政府の一員となることが唯一の道であり、閣僚として働くことが党首としての責務であったが、党首を退く以上、大臣または政府の一員として業務を継続する理由は見当たらない」と述べつつ、国防相からの辞任が現政権に影響を与えることは望んでおらず、国防相辞任の時期についてシャレツ首相と今後話し合いを行う予定であると述べた。



(ピヴェツ農林食糧相(左)、エリヤヴェツ国防相(右))
(Photo: www.sloveniatimes.com)

【外政】

●パホル大統領、次期クロアチア大統領と電話会談【6日】

6日、パホル大統領は、クロアチア大統領選挙決選投票で勝利したミラノビッチ次期クロアチア大統領と電話会談を行った。電話会談後、パホル大統領は記者団に対し、「ミラノビッチ次期大統領が、スロベニアとの関係促進を望んでおり、それが優先課題のひとつであると述べたことを嬉しく思う。自分からは、ミラノビッチ次期大統領にはスロベニアに(パホル大統領という)対話及び解決案模索を重視する友人がいると

いうことを伝えたが、同次期大統領は、(スロベニア・クロアチア間の国境画定に関する)仲裁合意についてのスロベニアの立場を認識し、同立場は考慮されなければならないということを知っておくべきである。対話が、両国が納得し、国益に沿った形で仲裁裁定の履行につながることを期待する」と述べたほか、クロアチアと良好な関係を保つことを目的として、2月上旬のクロアチア大統領就任式にパホル大統領が出席する意向である旨明かした。

●ツェラル外相、「Green Group」会合に出席【14日】

ツェラル外相は、アブダビにおいて開催された「Green Group」会合に出席した。2009年に発足した同グループは、スロベニア、アイスランド、コスタリカ、カーボベルデ、シンガポール、アラブ首長国連邦(UAE)で構成され、持続可能なグリーン外交を推進することを目的としており、今回の会合では主に2020年ドバイ万博について意見交換が行われた。ツェラル外相は、近年スロベニアは水外交に特別な関心を払っていると述べ、水と平和の関係につき議論を行うことを呼びかけた。また、ツェラル外相はUAEのアブダラー外務・国際協力大臣と会談を行い、気候変動対策や環境保護にかかる国際的な取組を支持するとの見解で一致した。そのほか、両者は両国間の航空リンクやイラン情勢等について意見交換を行った。



(Photo: スロベニア外務省)

●シャレツ首相、ダボス会議に出席【21日～22日】

シャレツ首相は、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラム年次総会に参加した。21日、西バルカン地域における戦略的対話に関するパネルに参加したシャレツ首相は、EUが北マケドニア及びアルバニアとのEU加盟交渉開始に関する決定ができなかったことへの失望を表明するとともに、安定した強い欧州を望むのであればEU拡大の継続が唯一の選択肢であると述べ、欧州の安定には西バルカン諸国が鍵となる旨強調した。

22日、シャレツ首相は、AIの公的セクターへの導入に関するディベートに出席した。同首相は、AIは、人類に有用で、個人及び社会の利益になる潜在性を秘めていると述べ、そのような利益を享受するために全ての関係者がAIの発展及び管理に力を注ぐ必要があると指摘した。一方で、シャレツ首相は、AI利用がもたらす課題についても言及し、AIを活用するためには倫理、モラル、人権の尊重が重要であると述べた。なお、シャレツ首相は、ダボス滞在中、プレンコビッチ・クロアチア首相、ポリソフ・ブルガリア首相、ゲオルギエヴァIMF専務理事、ストゥブ欧州投資銀行(EIB)副総裁等の各国・機関要人と会談を行った。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●スロベニア・クロアチア国境画定問題：欧州司法裁判所、スロベニアの提訴棄却【31日】

スロベニアが国境画定問題を巡りクロアチアを欧州司法裁判所に提訴している事案に関し、31日、欧州司法裁判所は、本事案は同裁判所の管轄権に属しないとの決定を下した。この決定を受けて、スロベニア外務省はプレスリリースを発表し、「欧州司法裁判所は本件に関する管轄権を有しないとの判決を下したが、同時に、同裁判所はスロベニアとクロアチアが仲裁合意の当事者として仲裁裁定に必要な措置を執らなければならない旨言及した。」と指摘した。ツェラル外相は、「これは両国間の国境は画定されており、仲裁裁定は両国で履行されなければならないとの明白なメッセージである。本日、欧州司法裁判所は、仲裁裁定は両国が履行すべき適正で法的拘束力を有するものであるとの、スロベニアが当初から主張し、どの国も否定しなかったことを明確に認めた。これは、クロアチアも仲裁裁定を履行しなければならないとスロベニアが主張していたことが正当なものであったとの更なる証左、それもEUの最高司法機関からのものである。」と述べた。

発見！スロベニア

最も影響力のあるスロベニア人100名

1月6日付週刊誌「Reporter」は、最も影響力のあるスロベニア人100名を発表しました。

第1位には、メラニア・トランプ米大統領夫人が選出され、前年同様首位の座を守りました。第2位には、シャレツ首相、そして第3位にはチェフェリン欧州サッカー連盟(UEFA)会長が選出されました。

30位までのランキングは以下のとおりです。雑誌には100位まで掲載されていますので、ご関心のある方は手にとってみてください。

順位	氏名(役職)
1	メラニア・トランプ(米大統領夫人)
2	マリヤン・シャレツ(首相)
3	アレクサンデル・チェフェリン(UEFA会長)
4	ポルト・パホル(大統領)
5	デヤン・ジダン(国民議会議長)
6	アンドレイ・ベルトンツェル(財務相)
7	ヤネズ・レナルチッチ(欧州委員)
8	ダミル・チュルンチェツ(安全保障担当副大臣)
9	ヤネズ・ヤンシャ(民主党党首)
10	ミラン・クーチャン(フォーラム21代表)
11	グレゴル・ゴロビッチ(ロビイスト)
12	アレンカ・ブラトウシェク(副首相兼インフラ相)
13	ズマゴ・イエリンチッチ(国民党党首)
14	ズドラウコ・ポチヴァルシェク(経済開発・技術相)
15	ボシュティヤン・ヴァスレ(中央銀行総裁)
16	ポルト・ヤムニク(Monda zavarovalnica社CEO)
17	ライコ・クネズ(憲法裁判所所長)
18	スタン・ペトリッチ(Kolektor社監査委員長)
19	トマジュ・ヴェセル(会計検査院長官)
20	ヨジェ・ツォラリッチ(Krka社CEO)
21	ミロ・ツェラル(外相)
22	ナダ・ドロブネ・ポポビッチ(Petrol社CEO)
23	ドラゴ・シュケタ(検事総長)
24	マテイ・ナラト(Sava社顧問)
25	エゴン・ザクライシェク(米連邦準備制度上級顧問)
26	アレシュ・シャベデル(保健相)
27	ゾラン・ヤンコビッチ(リュブリャナ市長)
28	ブランコ・ゴルボビッチ(LMS院内総務b)
29	ボシュティヤン・ポクルカル(内務相)
30	ルカ・メセツ(左派党首)

経済

【経済一般、指標・統計】

●米商務省次官補代理がスロベニアを訪問、次世代通信規格5Gに関する業者参入につき言及【23日】

ストレイヤー米商務省次官補代理(サイバー及び国際通信情報政策担当)がスロベニアを訪問した。同次官補代理は、記者団の質問に応え、スロベニア政府高官と非常に良い話し合いができた」と述べた上で、「5Gの導入に際して、スロベニアがどの業者の参入を認めるかはスロベニアが判断することであるが、会社の本部がある場所で法が機能しているかも含め、安全保障上の要件を満たしていることが重要である。その点において、中国は法律で業者がインテリジェンス機関に従うことが求められており、懸念がある」と述べた。記者団より、スロベニアがファーウェイ社を選択した場合について問われ、同次官補代理は「NATO内では緊密な安全保障上の協力や連携が行われている。信頼できない業者が5Gに参入することで、現在我々が行っている方法での相互運用能力を妨げることになる」と述べ、「スロベニア政府が米国の懸念を理解していると確信している」と述べた。

●汚職指数、スロベニアは35位【23日】

汚職監視NGO「トランスペアレンシー・インターナショナル」は、2019年版汚職指数を発表した。これによると、スロベニアは60ポイントで、前年とスコアは変更がなかったものの順位を1つ上げ35位となった。トランスペアレンシー・スロベニアによると、スロベニアのスコアは、EU平均の64ポイント、OECD平均の68ポイントのいずれも下回っており、課題としてより効果的な汚職対策を行うための制度的措置の欠如を挙げた。なお、ランキングの首位は87ポイントを獲得したデンマークとニュージーランドで、フィンランド(86)が3位、85ポイントを獲得したシンガポール、スウェーデン、スイスが同率4位となっている。なお、日本は73ポイントで20位であった。

●国家エネルギー気候計画文書草案の発表【28日】

ブラトウシェク・インフラ大臣は、2030年までのスロベニアのエネルギー政策を定義する国家エネルギー気候計画文書の草案を発表した。同文書は、あらゆる分野におけるエネルギー目標を設定するもので、2030年までに石炭使用を30%削減することを目標のひとつとしているほか、化石燃料に対する補助金を段階的に削減し、最終的には廃止することも提案されている。同大臣は、この期間内にショシュタニ火力発電所の第5ブロックを閉鎖し、リュブリャナ火力発電所への外国産石炭輸入を停止すると述べたほか、今後、原子力発電利用の選択肢を精査し、遅くとも2027年までにクルシュコ原発新原子炉建設の是非に関

する決定を行う予定であると述べた。また、同大臣は、水力発電は課題のひとつであると述べ、複雑な建設条件が主な理由で、現段階では2030年までにサバ川中流に水力発電所を建設する計画は盛り込まれていないとしつつ、水力発電所の建設及び稼働と自然は共存できると確信していると述べた。そのほか、同大臣は、自然保護区域における再生可能エネルギーの使用を促進する必要がある、気候中立社会への移行に向けて、R&D及び人材育成のための投資を拡大する必要があると述べた。

【企業、産業の動向】

●タバコ製品のパッケージ統一化が適用開始【1日】

2020年1月1日より、タバコ製品のパッケージ統一化措置の適用が開始された。保健省は、同措置は喫煙予防策として効果的であり、スロベニアは、オーストラリア、フランス、英国、アイルランド、ノルウェーをはじめとする喫煙対策が最も進む国々の仲間入りをしたと発表した。

●スロベニアのカー・オブ・ザ・イヤー発表【12日】

2020年スロベニア・カー・オブ・ザ・イヤーの投票が行われ、ルノーのクリオが受賞した。クリオは、1990年以降、スロベニアで最も売れている車種のひとつで、人気投票で選ばれた5台の中から、車関連メディアの記者、編集者等により、本年のカー・オブ・ザ・イヤーに選出された。なお、今回最終選考に残ったのは、クリオ(ルノー)のほか、コルサ(オペル)、T-Cross(フォルクスワーゲン)、カミック(シュコダ)、CX-30(マツダ)の5台。昨年はフォードのフォーカス、一昨年はフォルクスワーゲンのポロが受賞している。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の入札状況【17日】

コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業を運営管理する国営2TDK社は、本件事業に関し、第一区間(ディヴァチャ～チュルニ・カル区間)に15件、第二区間(チュルニ・カル～コペル区間)に14件の入札があった旨明らかにした。本件入札については外国企業も多く参加しており、第一区間には中国6件、

トルコ3件、オーストリア3件、スロベニア2件、イタリア1件、第二区間には中国6件、トルコ3件、オーストリア2件、スロベニア2件、イタリア1件が入札している。2TDK社のゾルコ社長は、入札状況に非常に満足している旨述べた。

●ゴレニェ社、人員削減を発表【22日】

家電大手ゴレニェ社幹部は、同社は本年4月中旬までに176名の人員削減を行う予定であると明かした。同社幹部によると、人員削減の理由は業績が芳しくないためであるとのこと。

●アドリア航空資産競売の実施【23日】

昨年10月に破産したアドリア航空の資産競売が実施され、スロベニア人ビジネスマンのイゼト・ラストデル氏が最近設立したエア・アドリアティック社が、4万5千ユーロでアドリア航空の事業許可を購入した。競売には、エア・アドリアティック社に加え、クロアチアの「Komforia」社及び元アドリア航空パイロットのデヤン・スロデイ氏が所有する「Dedal Aero」社が参加した。なお、ロシアのスホーイ社も同競売への関心を示していたが、競売には参加しなかった。落札者は、競売より3日以内に契約書に署名を行い、1か月以内に支払いを実施する必要があり、事業許可を使用するにはアドリア航空が破産前に満たしていた基準を満たす必要がある。



(Photo: Bor Slana/STA)

●ロンストロフ社工場の製造開始【28日】

スロベニア通信によると、住友ゴム工業子会社のロンストロフ社は、1月、ロガテツの工場において医療用精密ゴム製造を開始した。現在、同工場は約40名を雇用しており、2か月以内に更に50名の追加雇用及び施設拡張を予定している。ロンストロフ社は、広告代理店を通じて、製品に対する顧客からの承認を待っているため、現在工場は1シフトのみが稼働しており、もうしばらくはこの状態が続く旨コメントした。投資額は4800万ユーロに上り、その額の10%までスロベニア政府が助成を行う。

軍事・治安情勢・危険情報

●ソレイマニ・イラン革命防衛隊コッツ部隊司令官の死亡：スロベニアの反応【2日、3日】

バグダッドにおけるソレイマニ・イラン革命防衛隊コッツ部隊司令官の死亡等を巡る中東情勢の悪化を受けて、2日、スロベニア外務省は、Da'esh(ISIL)と戦う有志連合軍に対する攻撃を非難するとともに、犠牲者の家族、米国及びイラク政府に追悼の意を表明する声明を発表した。また、3日、スロベニア外務省は、イラク情勢に関する声明を発表し、過去数週間にイラクにおいて目撃されている如何なる暴力・武力紛争を非難するとともに、こうした状況における慎重さ及び緊張の高まりを予防する努力が重要である旨強調した。

●国防省、イラク駐留スロベニア軍兵士の退避を発表【8日】

8日、スロベニア国防省は、イラク北部エルビルでのイランによる攻撃を理由に、同地に駐留するスロベニア軍兵士6名を退避させることを決定した旨発表した。また、同発表では、パホル大統領、エリヤヴェツ国防相及びエルメンツ軍参謀総長が、8日早朝にエルビルに駐留するスロベニア軍兵士とテレビ電話を行い、兵士の状態を確認したことも明らかにされた。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●スロベニア軍兵士、エルビルから帰国【9日】

9日、エルビルに駐留していたスロベニア軍兵士6名が帰国した。エリヤヴェツ国防相は、議会での審議において、スロベニア軍兵士はイラク治安部隊の訓練のためにエルビルに派遣されていたが、治安情勢の悪化により任務を遂行することが困難となったため帰国したと説明しつつ、遅くとも2月1日までに新たな部隊を派遣すると述べ、訓練再開状況によっては2月1日前の派遣もあり得ると述べた。また、シャレツ首相もエリヤヴェツ国防相と同様に、スロベニア軍部隊のエルビル撤退は一時的なものであり、今後もスロベニアは国際平和ミッションに留まると述べた。

●トランプ米大統領の彫像、放火される【9日】

9日、首都リュブリャナから東に30kmにあるモラウチェ市に設置されていたトランプ米大統領の彫像が放火された。自由の女神を模倣されて作られたトランプ米大統領の彫像は高さが8メートルあり、当初はリュブリャナから北に20kmほどの位置にあるセロという小さな村に設置されたが、彫像がメディアの関心を引きつけ、住民に不安を呼び起こしたことから、昨年12月にモラウチェ市に移転していた。



(Photo: www.total-slovenia-news.com)

●スロベニア軍兵士の撤退に関するパホル大統領の発言【15日】

15日、パホル大統領はスロベニア軍兵士のエルビルからの撤退に関する同大統領の見解をビデオメッセージで発表した。同メッセージは、スロベニア軍兵士の撤退について国内で批判があることを踏まえたもので、パホル大統領は、「任務を遂行する条件が整わなくなったことが撤退の理由であり、状況を勘案すると撤退は正しい判断であったと確信している。」と述べたほか、「スロベニア部隊の撤退により、他の連合国に対してスロベニア軍及びスロベニア国家の名声に傷を付けることになったのではないかとの見方もあるが、自分はそうは思わない。スロベニアは、情勢緊張化につながったスレイマニ司令官への攻撃を含め、連合国の行動を理解しようとしている。スロベニアと同様に、連合国が我々の行動を理解するよう努めることを期待する」と述べた。また、同大統領は、仮にスロベニア軍兵士から犠牲者が出ていたら世論が急激に変わりえたという点も指摘し、「過去20年間、スロベニア政府の賢明な判断により、国際ミッションに従事するスロベニア軍部隊から犠牲者は出ていないが、仮に犠牲者が出た際には、軍の最高司令官である大統領が、遺族に対して、なぜそのようなことが起きたのか明確に説明できることが重要である」と述べた。

●ヨハンソン内務担当欧州委員のスロベニア訪問【17日】

ヨハンソン内務担当欧州委員がスロベニアを訪問し、ポクルカル内務大臣と会談した。会談において、

両氏は欧州における移民対策について協議し、ヨハンソン委員は、現在移民難民問題に関する新たな協定を策定しており、EU加盟国が一丸となって取り組むことが重要であると述べた。これに対し、ポクルカル大臣はスロベニアの協力を約束し、他方、効果的な協定策定のためには、現場での課題を考慮することが必要であると述べた。また、ポクルカル大臣は、シェンゲン域内での国境管理が過剰に行われており、この状況はEUの基本的自由には好ましくない影響を及ぼしているとの見解を強調した。

●スロベニア軍兵士、エルビルに再度派遣【30日】

30日、スロベニア軍は、イラク北部へスロベニア軍部隊を再派遣した旨を発表した。派遣されたのは6名の訓練指導官で構成される部隊で、スロベニア軍によると「生来の決意作戦（Operation Inherent Resolve）」に従事する同部隊は、数日以内に訓練を再開する予定。

令和元年外務大臣表彰:表彰状授与式

1月16日、大使公邸において、教育・文化団体のゲンキセンターに対する令和元年外務大臣表彰の表彰状授与式を開催しました。

式典冒頭、吉田大使より、「日本大使館がゲンキセンターと協力して開催する文化行事「ジャパン・デー」は、毎年約3千人の来場者を記録している。「ジャパン・デー」における当館との協力、当地における日本文化普及に対する貢献、日スロベニア間の友好関係促進に感謝する。」と述べ、ロメ・ゲンキセンター代表に表彰状を授与しました。



吉田大使からロメ・ゲンキセンター代表に表彰状授与

続いて、ロメ・ゲンキセンター代表がスピーチを行い、「日本から外務大臣表彰を頂き、大変光栄。10年前、日本語教育の活動を始めた時は、このような場に立てるとは夢にも思わなかった。今後も、この貴重な協力関係の下、スロベニアにおける日本及び日本文化紹介事業をともに盛り上げて頂きたいと考えているので、ご協力いただきたい。」旨述べました。

クレット文化副大臣は、「スロベニアと日本の間の友好関係促進のために尽力し、その功績が認められたゲンキセンターに祝意を表す。外国との文化交流は、相互理解の促進に貢献するだけでなく、異文化を知ることにより自己の発見にも繋がる。今後も、日本とスロベニアの友好関係が更に発展することを期待する。」と述べました。



参加者記念撮影

社会・文化・スポーツ

●ウーマン・オブ・ザ・イヤー【6日】

6日、女性誌「Jana/Zarja」が選出する2019年スロベニア・ウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞者が発表され、医師であるとともに人道的活動を行うNGO「Humanitarček」の所長を務めるニナ・コゾログ氏が選ばれた。同誌は、コゾログ氏が所長を務めるNGOが、ホームレスや年配者等に支援を行うと同時に、人々が尊厳を保つ手助けを行い、また、金銭的支援ではなく、助言、靴下、ストーブ用の薪等の人々が真に必要とするものを支援していることを表彰の理由として挙げた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●スロベニア・ワード・オブ・ザ・イヤー【9日】

スロベニア科学芸術アカデミー研究センターは、2019年ワード・オブ・ザ・イヤーに「気候」を意味する「podnebje」を選出した。2位はシャレツ首相が演説等で使用する独特の表現を意味する「Šarcism」で、3位はカーボンニュートラルを意味する「brezogljichen」であった。この賞は、2019年に行われたオンライン公募で集められた約300の提案の中から専門家によって選出されたもので、2018年はミツバチを意味する「čebela」が選出されていた。

●ソーシャル・メディアに関する調査【10日】

調査会社「Valicon」が実施した調査によると、スロベニアに住む16歳から74歳の内、82%が少なくとも1つ以上のソーシャル・メディアにプロフィールを登録していることがわかった。最も人気があるのが「Facebook」で99万5千人が登録しており、次いで「Instagram」(45万500人)、「Twitter」(20万8500人)、「Pinterest」(18万500人)、「LinkedIn」(16万1000人)の順であった。全てのソーシャル・メディアの中で最も急激な伸びを見せているのはインスタグラムであった。なお、チャットアプリについては、「Viber」が53万1500人で最も多く使用されており、次いで33万4000人の「Skype」となっている。

●著名登山家が転落死【18日】

18日、スロベニアの著名な登山家グレガ・ラーチェン氏が、カムニク・サヴィニャアルプスからの下山中に転落し、死亡した。ラーチャン氏は、エベレスト登頂を含め、世界中の様々な山で登頂を成功させてきた人物。1月にはこの他にも登山中の事故が発生しており、警察は登山者に対し注意を呼びかけるとともに、雪の積もった急な斜面を降りる際には特に気をつけるよう注意喚起している。

●政府、ユネスコにプレチュニク建築を登録申請する方針を決定【23日】

政府は、著名な建築家ヨジェ・プレチュニク氏が設計したリュブリャナの建造物を、ユネスコ世界遺産として登録申請を行う方針を決定した。申請名称は「Ljubljana: The Timeless, Human Capital Designed by Jože Plečnik」となる予定で、市内のリュブリャニツァ川沿い、ヴェゴヴァ通り、国立大学図書館、コングレス広場、ジャーレ墓地、市内2つの教会等が含まれている。なお、プレチュニク氏の代表的な建造物のひとつとされるベジグラード・スタジアムは、状態が悪く申請には含まれない予定。

●スロベニア男子卓球代表、オリンピックへの初出場が決定【24日】

スロベニア男子卓球代表は、ポルトガルで行われているオリンピック予選トーナメントにおいて、22日にイラン代表に勝利した後、24日にインド代表に3-1で勝利し、東京オリンピック出場を決めた。スロベニアの男子卓球代表がオリンピックに出場するのは初めて。試合後、代表チームのヨルギッチ選手は、「素晴らしい結果が出た。自分達の願いが現実になった」と喜びのコメントを發した。

スロベニア紀行

Dober Dan (スロベニア語で「こんにちは」) !

今月は2020年に行われるスロベニアのマウンテンランニング・トレイルランニングのスケジュールを紹介していきます。

海外の大会ってなかなか慣れていないと見つけにくいもの。加えて母語が英語でない国の website は英語に対応していないことも多く、行ってみたいと思ってもどんなレースがあるのか「？」だったり、そもそもレースを見つけること自体が難しいです。実は日本も海外から見ると同じで、英語に対応していない website もたくさんあります。だから、僕が苦勞しているのと同じようなことで実は海外から日本に興味を持ってくださった方も同じような悩みを抱えています。ですので、僕は海外で出会った友人から日本のレースについての相談をよく受けるのです。



AZS GORSKI TEKI Website:
<https://gorski-teki.si>

この紀行を読んでもらっている方の中で一度はスロベニアの山を走ってみたいと思っている方がいるかもしれませんし、そう思っていたきたいという思いで今回の原稿を書いています。

一番充実しているのは「AZS-GORSKI TEKI(マウンテンランニングの意)」。ここの「KOLEDAR(カレンダーの意)」をクリックするとスケジュールが出てきます。ざっと見れば日程や距離がわかりますのでgoogle翻訳を使いながらも十分理解できるはずです。5km ほどの短いレースから100km 以上のレースまでたくさんの種類がありますので是非チェックしてみてください。また、今年スロベニアの大会に出た方は感想を聞かせてください!

スロベニアの大ファンの僕としてはどんな感想を持ってもらえるのかとても楽しみです。スロベニアの大会ディレクター宛のメールは英語 ok です。うまいかどうかなんて関係なし。思いがあれば通じます。

ぜひチャレンジしてみてください!

宮地藤雄 (ミヤチフジオ)

2013~19 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●在留状況確認調査: 協力依頼(調査メール)

在留届を提出していただいた方々に、調査メールを送信させていただきます。目的は、海外において災害や緊急事態等が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、届出内容を確認させていただくものです。ご協力をお願い申し上げます。

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

●国境を越えて旅行する場合は、旅券を携行してください。

シェンゲン協定参加国間の移動では、空港や国境での出入国審査が廃止されているために、事実上日本人も旅券の審査なく他国へ入国できますが、旅券を携行していなかったことから罰金も科された事例もありますので、国境を越えて旅行する場合は、必ず旅券を携行して下さい。

●新型コロナウイルスにご注意ください。

新型コロナウイルス感染予防のために、手洗い、うがい、人混みを避ける等の感染症対策に努めてください。また、感染症危険情報等については、外務省海外安全ホームページもご参照ください。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

スロベニア国立公衆衛生局も、感染予防の方法や旅行者向けの注意点について公開しています。

https://www.nijz.si/sites/www.nijz.si/files/uploaded/koronavirus_nasveti-za-potnike.pdf

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>